

同時開催企画1 びわこアメニティー バリアフリー 映画祭2012

会期:2012年2月3日(金)~5日(日)
会場:大津プリンスホテル本館2F「比良」
主催:全国地域生活支援ネットワーク
日本精神科看護技術協会
入替制・定員180名 / フォーラム参加者は無料
映画祭のみ:映画祭協力券(1プログラム)・1,500円
※今回のチケット料金は、バリアフリー映画祭にご賛同いただいた協力金として頂戴するものです。

上映プログラム

| | |
|---------|---|
| 2月3日(金) | 12:30~13:57 沈黙の春を生きて |
| | 14:40~16:13 ユキエ |
| | 17:00~18:17 はだしのゲンが見たヒロシマ |
| | 19:00~20:57 Planet of Snail |
| | 21:30~23:28 酔いがさめたら、うちに帰ろう。 |
| 2月4日(土) | 10:30~12:48 河童のクゥと夏休み |
| | 13:30~15:31 人生、ここにあり! 〈上映前挨拶:『人生、ここにあり!』支援の会 中橋真紀人〉 |
| | 15:50~17:17 Planet of Snail —— 休憩 —— |
| 2月5日(日) | 17:30~18:50 シアタートーク 本音で語る、女性たちの バリアフリー映画・日韓事情 イ・ウンギョン(韓国バリアフリー映画委員会・理事長) 佐々木亜希子(活動弁士、副音声活弁) 関口祐加(『此岸彼岸』映画監督) 松田高加子(虹とねいろプロジェクト) |
| | 21:30~22:34 (R-18) 姉妹狂艶 |
| 2月5日(日) | 10:00~11:19 100,000年後の安全 |

*プログラムは変更なる場合があります。その際はどうぞご了承ください。

上映作品

沈黙の春を生きて



©2011 Masako Sakata/Siglo

企画・監督:
坂田雅子
ドキュメンタリー
2011年/87分
◆あいち国際女性映画祭2011・観客賞

1962年、レイチェル・カーソンが著した『沈黙の春』は、農薬の危険性を予言していた。ベトナム戦争時に撒かれたダイオキシンを含む枯葉剤は、ベトナムに残留していた米軍兵士も浴びており、帰還兵の多くが未だにその影響に苦しんでいる。被害は彼らの子供や孫の世代にまで及ぶ。本作は、枯葉剤の刻印を背負ったベトナム・アメリカ、双方の子供たちの困難と勇気を描く。

ユキエ



秀映画作品賞◆全国映画鑑賞団体連絡会議監督賞◆日本映画復興会議奨励賞ほか多数受賞

製作・監督・編集:
松井久子
出演:
倍賞美津子、
ポー・スペンソン、
草村礼子
1997年/93分
◆文化庁1998年度優

戦争花嫁としてアメリカ、ルイジアナ州のバトンルージュに渡った日本人女性ユキエ。やがて40年の歳月が流れ、彼女は夫やふたりの子供たちとともに平和に暮らしていた。しかし、そんなユキエにアルツハイマー病の兆しが見え始め…。アルツハイマーに冒された米在住の日本人女性と、アメリカ人男性との夫婦愛を描いたヒューマン・ドラマ。

はだしのゲンが見たヒロシマ



©2011 シグロ、トモコーポレーション

監督:
石田優子
ドキュメンタリー
2011年/77分

漫画家・中沢啓治さんが自身の生い立ち、広島での被爆体験から『はだしのゲン』を描くまでの半生を語る。中沢さんが広島市内の思い出の土地を辿りながら、原爆投下後の様子を詳細に証言、貴重な原画とともに決して忘れてはならない戦争と原爆の本当の姿を見つめる。

酔いがさめたら、うちに帰ろう。



©2010 シグロ/パップ/ピタース・エンド

監督:東陽一
原作:鴨志田稔「酔いがさめたら、うちに帰ろう。」(スターズ出版刊)
出演:浅野忠信、永作博美
2010年/118分

戦場カメラマンとして世界の紛争地域を駆け回ってきた鴨志田稔氏による自伝的小説『酔いがさめたら、うちに帰ろう。』の映画化であり、アルコール依存症になったひとりの男と、それを支え続けた家族たちの日々を丁寧に描いたヒューマン・ストーリー。主人公の男性が、肉体的にも精神的にも「酔い」からさめた時に、帰るべき本当の「うち」として、家族という心の居場所を見つけるまでを、まっすぐな眼差しで描く感動作。

人生、ここにあり!



©2010 シグロ/パップ/ピタース・エンド

監督:脚本:
ジュリオ・マンフレドニ
原案:脚本:
ファビオ・ボニファッチ
音楽:
ピピオ・アドニス・カワイ
出演:
クラウディオ・ピジオ
アンタ・カプリオリ
アンドレア・ボスカ
2008年/イタリア/111分

イタリアの精神保健医療の改革の先人バザーリア医師の実践をモデルに、精神障害者たちが就労と自立の生活を築いていく笑いに満ちた感動の物語。様々な障害のある個性豊かな人々が、可能性に挑み、壁にぶつかりながらも、新しい人生を掴み始めるドラマ展開のなかで、施設のスタッフや家族、周囲の市民との交流・衝突・すれ違い、悩みと喜びが、テンポよくコメディタッチで描かれ、人生というものエッセンスが伝わる名作。

Planet of Snail (原題)



©Yi SeungJun & CreativEAST

監督:
イ・スンジュン
ドキュメンタリー
2011年/韓国/
87分

視覚聴覚重複障害を持つ盲ろうの男性と、脊髄障害を持つ妻という夫婦が主人公として登場するが、社会的弱者を扱った典型的なドキュメンタリーとは違い、視覚と聴覚の両方を失い想像力に頼って本を書く主人公の独特な内面的世界を、監督の持ち前である繊細な観察力で主人公の人生に迫るクリエイティブ・ドキュメンタリーである。

姉妹狂艶 (R-18)



©2011 シグロ、レジェンド・ピクチャーズ・ミッドシップ

監督・脚本:
東ヨイチ
出演:
範田紗々、木下柚花、大石貴之、貴山侑哉
2011年/64分

遠距離恋愛中の、葉子。ある夜、急に思い立って深夜バスに飛び乗った。恋人の部屋の扉を開けると、ベッドの中には姉の幹子の裸が……。傷ついて部屋を飛び出し、ゆきずりの車に拾われた葉子。突然とんでもないことを言い出して、ドライバーの男をびっくりさせます。美しい姉妹をめぐる交差する、熱く切ない恋の物語。

100,000年後の安全



©2010 アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭

監督・脚本:
マイケル・マドセン
ドキュメンタリー
2009年/75分
デンマーク、フィンランド、スウェーデン、イタリア

ランプリ◆2010年アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭 最優秀グリーン・ドキュメンタリー賞受賞◆2010年コペンハーゲン国際ドキュメンタリー映画祭 有望監督賞受賞
誰にも保障できない10万年後の安全。放射性廃棄物の埋蔵をめぐる、未来の地球の安全を問うドキュメンタリー。コンセプトual・アーティストとしても活動する監督自らが、既に建設が進行中の施設に潜入し、このプロジェクトの実行を決定した専門家たちに、未来の子孫の安全性について問う。

河童のクゥと夏休み 無料上映



©2007 木暮正夫/河童のクゥと夏休み製作委員会

原作:木暮正夫『河童のクゥと夏休み』(岩崎書店刊)
監督:脚本:原恵一
声の出演:富澤風斗 横川貴大 松元環季 田中直樹 西田尚美 なぎら健壱
アニメーション(2007年/138分)
◆平成19年度(第11回)文化庁メディア芸術祭・アニメーション部門大賞
◆第31回日本アカデミー賞・優秀アニメーション作品賞
◆第62回毎日映画コンクール・アニメーション映画賞、ほか多数受賞

『映画クレヨンしんちゃん』シリーズの原恵一監督が、5年の歳月をかけて、木暮正夫著作の「かっぱ大さわぎ」「かっぱびっくり旅」をもとに、自ら企画、脚本を手掛けた作品。河童のクゥと少年・康一との出会いからはじまる物語は、友情、家族、思いやり、人とのつながりといった、いま、日本の家族の中で薄れつつある大切なことを思い出させてくれる、愛と優しさが溢れる感動作となっている。

同時開催企画2

~パリ展から1年~

アール・ブリュット展 これまで出会ってきた作家たち ~再び、世界に飛び出す作家たち~

会期:2012年2月3日(金)~5日(日)
会場:大津プリンスホテル コンベンションホール淡海10
入場料:観覧のみ 500円

ギャラリートーク(1日通し/観覧会込み) 4日(土) 1,000円
【ギャラリートークのプログラムは別途ご案内いたします。】
※同時通訳の機器が必要な場合は、別途、実費(2,000円)が必要。
※フォーラム参加者はいずれも無料。
※定員100名 事前の申し込みが必要です。

フランス パリで大好評を博した「アール・ブリュット ジャポネ」展から早1年。国内においてもアール・ブリュットに対する関心は飛躍的に高まりつつある。国内各地で展覧会が開催されたり、メディアの報道を通して、私たちの身近にアール・ブリュットという新たな文化芸術が根付き始めている。今回の展覧会では、パリ展後に会ってきた作家たちの中から、30名あまりの作家の作品を紹介する。これらの作品たちは、2012年秋から、オランダ、ベルギー、イタリア、イギリスの美術館を巡回する予定である。パリ展に続き、日本のアール・ブリュット作品が世界を渡り、育った環境や文化、障害の有無を超え、果てしない人の表現の可能性を再び伝えることだろう。

また昨年同様に、ギャラリートークを開催する。内容は、海外からの講師を含め、目下、検討中であり、決まり次第、「ポダレスアートミュージアムNO-MA」のホームページで案内をします。ますます熱くなる日本のアール・ブリュット。最近、興味を持った人、ずっと関心があった人、どちらにもおすすめのプロプログラムで皆さんをお迎えします。



久保田洋子



畑名祐孝



国府田良子



山西敏子



伊藤喜彦



会場風景:アール・ブリュット・ジャポネ凱旋展(アメニティーフォーラム15)

お問い合わせ
展覧会に関して…社会福祉法人愛成会(担当 小林) 03-3387-0082
ギャラリートークに関して…滋賀県社会福祉事業団企画事業部(担当 齋藤) 0748-31-2481